

## コミュニケーション・オン・エンゲージメント (COE)

本コミュニケーション・オン・エンゲージメントが対象とする期間

開始日：2015 年 12 月 1 日

終了日：2017 年 11 月 30 日

### パート I. 最高責任者による国連グローバル・コンパクトへの継続的支持の表明

2017 年 11 月 30 日

国際基督教大学 (ICU) はキリスト教の精神にもとづき、「国際的社会人としての教養をもって、神と人ともに奉仕する有為の人材を養成し、恒久平和の確立に資すること」を目的として、1953 年に献学された。

人種、宗教、国籍を問わず、すべての学生を平等に受け入れている ICU では、開学以来、新入生が一人ひとり入学式で「世界人権宣言」を尊重することを誓う「学生宣誓」に署名する。

このように、ICU がグローバル・コンパクトの掲げる原則を支持することは、大学の理念と一致しており、特に「人権擁護の支持と尊重」と「環境に対する責任のイニシアティブ」の二点に関しては、具体的に学内で実践すべく日々努力している。

現在、ICU はグローバルな社会で活躍する学生を育成する大学として、2014 年に文部科学省による「スーパーグローバル大学創成支援」に採択され、「信頼される地球市民」として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する人材の輩出を目指し、今後もグローバル・コンパクトを支持していきたい。

学 長

日比谷 潤子

## パート II. 取り組み状況

### 1. 「人権擁護の支持と尊重」 人権セミナーの実施

2017 年 3 月 国際基督教大学 日比谷潤子学長による宣言「人権侵害のない大学を目指して」にあるように、大学を取り巻く環境において、2015 年に出された性的マイノリティへの配慮を求める文部科学省通知、2016 年に施行された障害者差別解消法とヘイトスピーチ規制法など人権意識が日々高まりつつある一方で、大学がその国際化を進め、深化する過程においても、人権意識の向上はいまや必要欠かさざるべきものである。

本学では、学生、教職員をはじめとする全ての ICU 構成員の誰もが、安心して学び、研究し、働き、生活できるようにするために、構成員一人ひとりが「人権」を自分のこととして捉え、そして考えることを旨とした人権セミナーを毎年 12 月の人権週間に合わせて実施し、学生や教職員の間に浸透し、成果を上げている。

このセミナーは、各界で活躍している方に、自身の仕事や専門領域に関して人権の視点で語っていただくことにより、日常生活の中に存在する人権問題を学生と教職員が認識する機会とすることを目的として開催し、大学のコンヴェンションアワーという時間帯に実施している。このコンヴェンションアワーは、学生と教職員が一緒に集まることができるように、授業や予め許可されていない活動は行わないことになっている。学内の構成員全員が参加できるような時間帯に毎年開催されるこの「人権セミナー」は、本学の人権に対する歴史的、伝統的な取り組みとして長年実施されている。

近年の講演内容は下記のとおりで、日常生活の中での人権に対する意識をどのように醸成していくかに焦点をあてている。

実施日	講演者	テーマ
2010.12.14	平田オリザ	他者を思いやる『技術』
2011.12.13	北山修	日本人のコミュニケーション～母子像研究より～
2012.12.11	加納寛子	ソーシャルメディアでのコミュニケーションを考える ～加害者にも被害者にもならないために～

2013.12.10	ハリス鈴木絵美	SNS の可能性と覚悟
2014.12.09	高倉麻子×有元健（本学教員）	スポーツと人権意識
2015.12.08	金聖雄×Christopher Bondy（本学教員）	映像表現と人権～コミュニティーの中での人権を考える
2016.12.13	小竹宏子	キャンパスにおける多文化共生を考える

学生の参加を促すために、学生によるポスターを日本語・英語で学内に掲示し、当日の同時通訳は通訳の訓練を受けている学生たちが行っている。これらは、本学の特徴である「日英バイリンガリズム」と「(大学構成員の) 多様性」に鑑みでの配慮であり、人権セミナーが大学構成員全員に向けたメッセージであることを示し、上記の作業に関わる学生たち（教員も含む）が本セミナーやそこで扱われるテーマを一層の自分のこととして捉える機会になっている。

## 2. 「環境に対する責任のイニシアティブ」 太陽光発電事業と新学生寮（樅寮・楓寮）での取り組み

本学では、「ICU 環境宣言」に加え、2014 年 12 月に学内に設置された「キャンパスエネルギー検討委員会」で 次の 3 つの項目の検討を行った。

1. 省エネルギーの促進に向けた多様なエネルギー源によるエネルギーの高効率化
2. 温室効果ガスの削減を含めてサステナブルキャンパスに向けた環境対応
3. 大災害時にエネルギー供給が途絶える場合に備えたレジリエンス機能

2015 年 6 月 30 日に、本学栃木県那須キャンパスにて、太陽光発電事業を開始した。CO2 削減による環境負荷低減への取り組み、所有資産の有効活用、太陽光発電により生じる収益を学生支援のために活用することを目的とし、20 年間運営する予定である。

さらに、2017 年 4 月に開寮した新学生寮 2 棟（樅寮・楓寮）では、以下の技術と取り組みを採用した。

1. 階段上部に換気窓を設置
2. 電力の見える化で省エネ促進、教材提供
3. 各階ごとに小分けした空調運転
4. ペアガラスの断熱窓
5. 太陽光パネルで常備灯に電力供給

6. 全館に LED 照明
7. 電気とガスのエネルギーバランス

### パート III. 成果の測定

#### 1. 「人権擁護の支持と尊重」 人権セミナーの実施

2015 年は 20 名程度、2016 年は 30 名強の学生・教職員が出席した。2016 年の「キャンパスにおける多文化共生を考える」では、グループワークを行い、活発な気付きの遣り取りが行われた。このグループワークは、「他から与えられるものではなく、自分のこととして捉え、自ら考え、そして自ら気付く」本学の人権に対する姿勢に通底するものであり、ある程度の成果をみた。

2017 年以降は、人権セミナーをはじめとする「気付き」の場を提供するにあたり、周知方法などを工夫し、より多くの大学構成員の出席を促したい。

#### 2. 「環境に対する責任のイニシアティブ」 太陽光発電事業と新学生寮（樅寮・楓寮）での取り組み

那須キャンパスでの発電状況は事業開始を開始した 2015 年度に引き続き順調であり、2016 年度は 2,938,072kWh の発電を行うことができた。我が国の自然エネルギー利用の一端を担うと同時に、収益を学生へと還元し、教育活動の充実へ寄与している。

2017 年度より利用を開始した新学生寮（樅寮・楓寮）は階段室最上部に換気窓（天候による自動開閉機能付）を設けることで、一階から五階または七階まで風を通し、自然の力による換気を行っている。また本学の主な建物に採用されているセントラル方式の空調から、個別空調（空調箇所により電気式とガス式を選んで採用）とすることで、エネルギーの無駄を省き、また全館 LED 照明による省エネルギー化も実現している。入居する学生への説明を行い、学生も意識をもって自然換気を積極的に利用している。2017 年 4 月からの供用であるため 1 年間のエネルギー消費量は算出できないが、他寮に比べて省エネルギーでの運用結果が期待できる。

以上